

第5章 第4次中野区民地域福祉活動計画の取り組み

1. 中野区との連携強化

(1)地域福祉計画と地域福祉活動計画の連携

中野区が策定する「地域福祉計画」と中野区社会福祉協議会が区民及び地域活動団体、関係機関と一緒に策定する「地域福祉活動計画」が連携し、地域福祉の推進を進めます。

第4次中野区民地域福祉活動計画では、地域課題の共有及び地域活動への参加促進、複雑化した様々な課題への取り組みと社会資源の創出など、身近な地域でのネットワーク作りやコーディネートの強化を中野区とともに進めていきます。

(2)地域共生社会の実現に向けて地域福祉の推進を協働で進める

複雑多様な課題に対応するため、高齢・障害・児童などの縦割りではなく、きめ細やかな連携による重層的な支援を作るため、他機関協働や地域づくりが国の方針として進められています。中野区でも重層的支援体制整備事業に取り組み、すこやか福祉センターや区民活動センターを中心に個別支援と地域支援の強化を行っています。

これまでも地域担当職員を中心に、中野区のアウトリーチチームと連携し、複雑多様な課題に関係機関と一緒に取り組み課題解決を図り、地域の社会資源づくりも居場所活動などの情報交換や必要な取り組みを一緒に立ち上げるなど連携していました。

しかし、複雑多様な課題が広がる中、地域の社会資源の必要性は高まり、専門職同士の他機関連携はまだ十分ではなく、中野区のアウトリーチチームとの連携も、個別の課題を通じての連携にとどまっています。

第4次中野区民地域福祉活動計画では、重層的な支援の強化と社会資源づくりを一体的に行うため、地域課題の共有を図り、地域福祉の推進を共に進めることを目的に、専任のコーディネーター（(仮称)地域福祉コーディネーター）を社協に配置し、区民活動センター圏域での連携強化を進めていきます。

2. 第4次中野区民地域福祉活動計画の重点的な取り組みについて

(1)地域福祉推進フォーラム・地域懇談会等から見えてきたこれからの取り組み

素案をもとに、第4次中野区民地域福祉活動計画で取り組む重点的な課題と取り組みについてご意見を頂くため、12月に地域福祉推進フォーラムと地域懇談会を開催し、その他ホームページでの意見集約を行いました。

①地域福祉推進フォーラム

2023年12月1日(金) オンライン開催 参加者 20名

孤独・孤立から考えるこれからの地域づくり

法政大学 現代福祉学部 教授 宮城孝氏 (いきいきプラン推進委員会 委員長)

東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授 加山弾氏 (いきいきプラン推進委員会 副委員長)

話題提供

介護の現場から見える孤独・孤立の現状 中野区介護サービス事業所連絡会 副会長 森京子氏

ひきこもり経験者からのメッセージ 三條 氏

②グーグルフォーム(ホームページ)からのご意見募集(12/1~12/31) 2名

③地域懇談会

第1回:2023年12月11日(月) 鷲宮区民活動センター 参加者36名
話題提供 酒井兼重委員・白岩裕子委員

第2回:2023年12月12日(火) 南部すこやか福祉センター 参加者21名
話題提供 道林京子委員

これから必要な取り組みについてのご意見

① 居場所活動

- 常設の居場所と敷居の低い相談ができる場所づくり
- 子どもたちの居場所をもっと増やしてほしい。
- 居場所づくり。気楽に集まり、常設のようになれば、困りごと等相談もできる。
- 多世代交流の居場所。ただの居場所でなく、生きがいにつながるような活動ができる場
- 毎日いろんな所に行ける居場所を作る必要があると思った。

② 地域活動のコーディネート

- 「何か地域に参加したい」「何かやりたい」方が増えているように感じます(50代~70代)。うまくつなげることができてません…。
- ボランティアの支援者と要援者のマッチングの推進

③ 情報を届ける仕組み

- グループワークでも出ましたが、小さい地域の単位でのきめ細かいサービスや情報のやりとりができるとうい。

④ 一人一人に寄り添った支援

- 私は、パニック障害を抱えています。以前、パニック障害の方の集まりとかないか調べてましたら、中野にはありませんでした。「パニック障害の事しか私はわかりませんが、集まる場所に、行きたくても行けない」という事があります。そういった方にも目をむけていただきたい。
- 孤独・孤立の高齢者は、自ら困っていると手を挙げてくださる方は少なく、大半の方は表から見えません。このような方々が表にでていただくための取り組みが必要と感じる。
- 障害を持っている方たちの孤立を防ぐ取り組み

(2)第4次中野区民地域福祉活動計画での4つの重点事業

素案作成に伴うアンケート調査、いきいきプラン推進委員会での検討、さらには素案をふまえた意見交換会等を通じ、多くの方からご意見を頂きました。

それらの意見を踏まえ、4つの重点事業をこの第4次中野区民地域福祉活動計画では、皆さんと一緒に進めていきます。

重点事業① 多様な居場所を作る

居場所は、地域の人と人がつながる拠点であり、身近な取り組みとして広がっています。しかし、子どもや若い世代の居場所、フリースペースのようないつでも気軽に立ち寄れる居場所、居場所につながるための情報や誘ってくれる人など、さらなる充実を求める声を多くいただきました。地域に大・小、様々な居場所や数を増やしていくことを進めていきます。

重点事業② 活動のすそ野を広げる

地域活動を通じて生きがいやつながりが生まれていて、地域自体も活性化しています。中高生や学生から、様々な年代、さらには高齢になっても、障害や病気を抱えていても、地域で役割もち、活動に参加することは、これからの地域づくりでは必要となっています。人だけではなく、活動団体や福祉施設、企業、商店街など多様な主体が、地域に関心を持ち活動に参加することが求められています。多様な活動を地域で作り、参加する場を広げていきます。

重点事業③ 必要な人に情報を届ける

困った時や何かあったときに相談につながるためには、相談窓口だけでなく、身近なところで情報がキャッチでき、すぐにアクセスできることが求められています。例えば、コンビニやスーパー、SNS など様々なツールが必要となっています。さらに、情報が多すぎると整理することも負担となるので、一緒に整理しわかりやすく伝える工夫も求められていることが、当事者の皆さんからご意見として寄せられました。

情報を発信するだけでなく、人やツールを通じて整理し、必要な人がその情報を通じて支援につながる仕組みを作っていきます。

重点事業④ 一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる

住民だけでなく、高齢者や障害者、子どもの支援をしている専門職も含め、制度や仕組みの狭間の課題に気づき、多様な支援の必要性及びインフォーマルな社会資源を求めている声が多く聞かれました。

地域の皆さんが、地域での様々な課題に関心を持ち、その課題を共有する場を作り、一緒にできることを考え、行動していくことを進めていきます。その中で、制度として必要なことは提案し、一人ひとりのニーズに合わせた支援を広げていくことが、様々な団体等の連携やネットワークにつながり、結果として地域の課題解決につながるような取り組みを進めていきます。

支援を受けるだけでなく、地域活動や社会参加の場を求めている人に対し、多様な人が参画できる場を、地域の皆さんと作っていきます。

(3)重点事業を進めるための中野区社会福祉協議会の取り組み

この5年間で4つの重点事業を地域の皆さんと一緒に進めていくため、中野区社会福祉協議会では、2つの取り組みを行います。

第4次中野区民地域福祉活動計画では、きめ細やかなつなげる取り組みが求められています。現状では、複雑多様化した課題への取り組みや潜在的な活動者を地域につなげるためには、様々な人や団体等をつなげる人(コーディネーター)やつなげるための仕組みが必要という意見が多く出されていました。

その課題に取り組むべく、今回の計画では、コーディネート機能を強化した専任のつなぎ役((仮称)地域福祉コーディネーター)を中野区社会福祉協議会に配置し、この5年間で地域づくりを進めていきたいと考えております。

(仮称)地域福祉コーディネーターは、まず重点地域(モデル地域)に配置し、実践を進めていながら、5年間で複数の地域に広げていく事を目指しますが、複数配置に至るまでは、地域担当職員の取り組みを工夫しながら、地域でのコーディネート機能を強化していきます。

全域的な取り組みとして、制度の狭間や課題に対応するため、既存の支援メニューの工夫や相談機能の強化、社会資源づくりなどこれまでの取り組みを拡充や工夫することも同時に進めていきます。

① コーディネート機能の強化((仮称)地域福祉コーディネーターを5年間で複数の地域に広げていく)

すこやか福祉センター圏域にコーディネート機能を強化するため、専任のコーディネーター((仮称)地域福祉コーディネーター)の配置を拡げ、区民活動センターごとの取り組みを地域担当職員と連携し、地域支援を強化します。

(仮称)地域福祉コーディネーターが、区民活動センター圏域ごとに地域にアプローチしながら、声を出せていない人へのアプローチや様々な取り組みの立ち上げ支援、様々な団体同士の連携を作っていきます。

<区民活動センターごとの地域づくり>

地域懇談会の開催 地域課題の共有・社会資源の情報共有

多様な居場所づくり 課題に合わせた居場所づくり・多様な居場所の立ち上げ支援

地域での活動者を増やす 活動したい人のための活動先の確保やコーディネート

地域での情報発信の仕組みを作る

地域課題への協働事業の実施 活動団体との協働事業や連携強化

5年間の進め方

重点地域(すこやか福祉センター圏域)に(仮称)地域福祉コーディネーターを配置します。モデル地域での実践となるので、地域支援など取り組みをまとめ、中野区のアウトリーチチームや活動団体等の連携による事業評価を行います。

地域担当職員との連携のあり方、区も含めた団体等との協働のあり方や役割分担など、複数配置につなげるため、中野区と評価を共有します。

② 既存の事業の工夫や拡充

- まちなかサロンも含め地域の居場所を地域の拠点の一つとしてとらえ、つながりづくりを進めていきます。
- 地域活動者が情報を共有し、気づいた課題を話し合い社会資源を作ります。
仮称:ご近助隊 NAKANO
→参加者の困りごとに気づき・必要な支援につなげる区民をご近助隊として参加してもらい、居場所や地域で活動を拡げます。
- 情報ツールの活用 SNS・相談ツールの検討
- 食を通じた居場所づくり・災害をテーマにネットワーク作り
- 若い世代への福祉プログラムの開発(学校との連携)
- 団体支援(新たな活動や取り組みへの助成と相談支援)を通じた活動の場づくり
赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動を通じた共同募金を、地域の課題解決につなげるため、これまでの配分の見直し、スタートアップや地域課題の解決に向けた取り組みへの助成を強化します。
- 中野区内社会福祉法人等連絡会と連携し、就労体験の場の提供や地域における公益的な取り組みを拡げます。
- 地域課題への取り組みを拡げるため、必要な財源をファンドレイジングや寄付などの、財源の確保に取り組みます。

5年間の進め方

既存の事業を第4次中野区民地域福祉活動計画の取り組みに向けて検討し、強化する事業をピックアップしながら、取り組みを進めます。

様々な取り組みをわかりやすく伝えるために、対象に合わせた発信をしていきます。

中野社協が考える(仮称)地域福祉コーディネーターとは

社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくりを目指し、一つひとつの課題や一人ひとりに向き合い、福祉の専門職としてのソーシャルワーク機能も含め、解決に向けた取り組みを進めます。

高齢・障害・児童などの分野別での支援ではなく、地域の様々な活動団体やボランティアグループ、関係機関と連携協力することを目的に、そのつなぎ役となる役割を担います。

地域の課題や活動団体が抱えている課題を一緒に考え、新たな社会資源を地域の皆さんと一緒に作ったり、必要な制度に結び付けるなど、行政との協働も進めていきます。

中野社協の地域担当職員とは

地域担当職員は、地域の身近な相談者として、皆さんからの相談を受け止め、必要な支援や社協のサービスにつなげていきます。地域から寄せられた相談の中で、団体同士の連携の推進や情報交換などによる課題の共有、活動支援などは(仮称)地域福祉コーディネーターと一緒に取り組みます。制度の狭間の課題には、福祉何でも相談と連携し、必要な支援を(仮称)地域福祉コーディネーターと作り出します。

基本理念：わたしたちがいつもいきいきと暮らすために ～社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくりを目指す～

下記の重点目標に取り組み、基本理念の実現を図ります

区民活動センター圏域

コーディネート
(つなげる・支援する)

重点目標①

参加するほど楽しくなるまち NAKANO

多様なメニューをつくり誰もが活動に参加できる地域を作る

地域活動に参加することにより人とのつながりができ、地域での役割を持ち主体的に参加できる地域を作る

重点事業① 多様な居場所を作る

重点事業② 活動のすそ野を広げる

重点目標②

多ジャンル共生でつくるまち NAKANO

様々な分野で活動する団体同士が連携して、地域の社会資源や支援に、必要な人を結びつける

様々な分野で活動する団体同士が連携して、地域の社会資源や支援に、必要な人を結びつける

重点事業③ 必要な人に情報を届ける

重点事業④ 一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる

MEを
WEにする

ネットワークづくり

(様々な分野の活動団体が連携する仕組みを作る)

制度だけでは対応できない課題を住民主体で取り組む

地域の課題から必要な制度やサービスを提言

新たな制度や社会資源づくりにつなげる

(4)第4次中野区民地域福祉活動計画でのそれぞれの取り組みと役割

重点目標①参加するほど楽しくなるまち NAKANO

「重点事業①多様な居場所を作る」と「重点事業②活動のすそ野を拡げる」を中心に、地域での活動を活性化し、そこに人や情報が集まり、つながりづくりを拡げていきます。誰もが、役割を持って地域に参加し、参加することで何かあったときに相談や頼れる地域を作っていきます。

	区民・地域団体の取り組み	関係機関の取り組み
重点事業① 多様な居場所を作る	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域のイベントに参加して、様々な人と知り合いになる。 ◆ 関心のある居場所を見に行く。 ◆ 居場所活動に参加し、福祉情報や日ごろの生活に役立つ情報を話し合う。 ◆ 誰でも参加できる居場所や多世代交流、子どもや若者の居場所など多様な居場所づくりの活動に参加する。 ◆ 趣味や好きなことで集まる場を拡げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の居場所に参加して、情報を知る。 ◆ 居場所活動に協力し、その場で相談や福祉情報等を提供する。
重点事業② 活動のすそ野を拡げる	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 身近な人を地域活動に誘う・一緒に活動する。 ◆ 身近な地域で活動している団体同士がお互いに協力しあい、時には一緒に活動に取り組む。 ◆ 活動に必要な情報を共有する。地域の情報を教えあう。 ◆ 活動団体は、日頃の活動の情報を発信し、周知を拡げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域や活動団体、居場所活動、学校の福祉プログラムとして、専門職として協力する。 ◆ 様々な活動の場を提供する。活動プログラムを協働で作る。

	中野区の取り組み	社協の取り組み
重点事業① 多様な居場所を作る	中野区地域福祉計画より <ul style="list-style-type: none"> ◆ 身近な地域の人と知り合うきっかけづくり ◆ 高齢者の居場所や活動の場づくりの推進 ◆ 認知症地域拠点の推進 ◆ 障害者との交流機会の充実 ◆ 子どもたちの安全・安心な居場所づくり アウトリーチチームとの連携(区民活動センター圏域での取り組み) <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域ごとの行事や取り組みなど活動場所や活動団体の情報収集 ◆ 活動団体等の情報発信 ◆ 活動の場の提供 	コーディネート機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ (仮称)地域福祉コーディネーターの配置 ◆ 課題に合わせた居場所づくり・多様な居場所を立ち上げる。 既存の事業の工夫と拡充 <ul style="list-style-type: none"> ◆ まちなかサロンも含め地域の居場所を地域の拠点の一つとしてとらえ、つながりづくりを進める。 ◆ 食を通じた居場所づくり・災害をテーマにネットワーク作り
重点事業② 活動のすそ野を広げる	中野区地域福祉計画より <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域活動の推進 ◆ 見守り・支えあいの推進 ◆ 新たな担い手の育成・支援 ◆ 関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 中野区町会連合会と、協働の取組を進める。 ➢ 地域の課題解決に向け、連携体制を強化し、新たな地域活動団体の掘り起こしや自立に向けた支援を行う。 ➢ 中野区社会福祉協議会が作成する第4次中野区民地域福祉活動計画(いきいきプラン)と連携を図り、地域福祉の向上に取り組む。 児童館において、子育て支援活動を行う地域団体や個人の活動を支援し地域における子育て活動支援の強化を図る。	コーディネート機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◆ (仮称)地域福祉コーディネーターの配置 ◆ 地域で活動している団体と活動したい人をつなげる。 ◆ 多様な活動メニュー作り ◆ 地域での福祉プログラムを作り、学校へアプローチする。 既存の事業の工夫と拡充 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 社協事業に協力している区民に、地域の情報や活動プログラムを提供する。 ◆ 有償での活動メニュー、土日や夜間での説明会やイベントの開催、福祉分野以外のメニューなどを事業の中で実施する。 ◆ 若い世代への福祉プログラムの開発(学校との連携) ◆ 団体支援(新たな活動や取り組みへの助成と相談支援)を通じた活動の場づくり

重点目標②多ジャンル共生でつくるまちNAKANO

「重点事業③必要な人に情報を届ける」と「重点事業②一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる」を中心に、必要な人に情報を届ける仕組みと様々な支援を協働で作る。住民一人ひとり、活動団体が地域の情報を知り、広げていく役割を担い、声をかけつなげる地域を目指す。一人ひとりのニーズに合わせて、支援だけでなく一緒に活動し社会参加の機会を作っていく。

	区民・地域団体の取り組み	関係機関の取り組み
重点事業③ 必要な人に情報を届ける	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 居場所の情報を発信したり、身近な人に伝えて、必要な人に情報を届ける。 ◆ 身近な人に地域活動の情報や福祉情報などを伝える。 ◆ 他の団体の活動を知る機会を持ち、情報交換会や会合に出席して、情報集める。 ◆ 活動に必要な情報を共有する。地域の情報を教えあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の社会資源やインフォーマルな取り組みを把握し、必要な人をつなげる。 ◆ 福祉サービスや制度の仕組みを区民や活動団体に情報提供し、日ごろの活動を通じて相談につながる関係を作っていく。
重点事業④ 一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日ごろの活動で見える気づいたこと、課題と感じていることを共有する。 ◆ 身近な地域で活動している団体同士がお互いに協力しあい、時には一緒に活動に取り組む。 ◆ 気になる人や支援が必要な人を見つけたら声をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 専門職同士が地域にある相談窓口や必要なサービス、社会資源を知る。 ◆ 様々な機関や地域活動団体と連携し、地域課題の共有、協働して取り組む。

	中野区の取り組み	社協の取り組み
重点事業③ 必要な人に情報を届ける	<p>中野区地域福祉計画より</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域包括ケア体制の構築の推進 総合的な相談機能及び地域におけるコーディネート機能の向上や、アウトリーチチームの対応力及び連携の強化を図る。 <p>潜在的な要支援者の発見、孤立の防止に向け、多職種によるアウトリーチ活動を進め、課題の深刻化を未然に防ぎ、本人やその家族を適切な相談支援につなげる。</p>	<p>コーディネート機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ (仮称)地域福祉コーディネーターの配置 ◆ 地域懇談会を定期的に開催 地域課題の共有・社会資源の情報共有 <p>既存の事業の工夫と拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報ツールの活用 SNS・相談ツールの検討
重点事業④ 一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる	<p>アウトリーチチームとの連携 (区民活動センター圏域での取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域課題の把握や発信 ◆ 新たな制度や仕組みづくりの検討 ◆ 地域課題に応じた協働事業の実施 	<p>コーディネート機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ (仮称)地域福祉コーディネーターの配置 ◆ 地域懇談会を定期的に開催 地域課題やそれぞれの活動から見える課題などを共有し、お互いに協力し合える関係を作っていく。 ◆ 地域のニーズに合わせた社会資源や仕組みを作る。 ひきこもり支援や生活困窮、ヤングケアラー、子どもや若者の居場所など重要な課題に対応する仕組みを専門で支援をしている団体と事業化して取り組む。 <p>既存の事業の工夫と拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域活動者が情報を共有し、気づいた課題を話し合い社会資源を作る。 (仮:ご近助隊 NAKANO) 参加者の困りごとに気づき・必要な支援につなげる。 ◆ 既存の支援メニューの拡充 ◆ 中野区内社会福祉法人等連絡会と連携し、就労体験の場の提供や地域における公益的な取り組みを拡げる。